

『着ること／脱ぐことの記号論』

新刊
10月発売!

着ることにあこがれ、脱ぐことにときめく!

衣服を着るとは、〈意味〉を着ることであり、
裸体とは、いわば、〈意味の欠如〉を着ることである。
だからこそ、脱ぐことは、かくもスリリングなのだ。
「着る／脱ぐ」という記号過程(セミオシス)を、
いま、根源的に問い直す。

(叢書セミオトポス 9)
日本記号学会 編



ひとは着たあとは脱がなければならない。「すでに頭は脱いでいる」(?) 哲学者・鷺田清一氏と日本記号学会会長・吉岡洋氏による、「脱ぐこと」をめぐる抱腹絶倒かつ秀逸の対談。裸体を新聞紙に包むことによって、さまざまなパフォーマンスを展開する「新聞女・西澤みゆき」の魅力をその作品とともに紹介する「新聞女」論。さらには、昨年(2013年)逝去された元日本記号学会会長・山口昌男氏の記号学会との関わりを逸話とともに振り返る追悼特集など、内容もりだくさんです。

A5判並製242頁 定価3024円(本体2800円+税)

*送料はサービス

■主な内容紹介

I 着ることを脱ぎ捨てること

〈脱ぐこと〉の哲学と美学

新聞女—アートは精神の解放

鷺田清一 vs 吉岡 洋

大久保美紀

II 「憧れ」を纏うこと

「なぜ外国のファッションに『憧れ』るのか」を問うということ

表象としての外国のファッション—エキゾチズムをめぐる

日本映画に見る「モガ」の表象—洋装とアイデンティティ

キャラ的身体のためのファッション

ヨーロッパの輸入、再生産、そして逆輸入と再々生産

—ゴスロリ・ファッションをめぐる

「憧れ」とともに生きる—シンポジウムを終えて

高馬京子

高馬京子

池田淑子

大久保美紀

杉本パウエンス・ジェシカ

大久保美紀

III (人)を着る(ということ)

袈裟とファッション

音を着る—フルクサスの場合

ギー・ドゥボールとその「作品」

—映画『サドのための叫び』における「芸術の乗り越え」と「状況の構築」

(人)を着る(ということ)

小野原教子

塩見允枝子

木下 誠

小野原教子

IV 日本記号学会と山口昌男

山口昌男先生を偲んで

吉岡 洋・室井 尚・立花義遠・岡本慶一

V 記号論の諸相

究極的な論理的解釈項としての「習慣」とパースにおける「共感」

家族関係修復のセミオシス—発達記号論ケース・スタディ

ペルシャの青—ホイチン(回青)の壺に現われた形而上の諸々

佐古仁志

外山知徳

木戸敏郎

新曜社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-9 第一丸三ビル3F

TEL 03-3264-4973 (代表) FAX 03-3239-2958

申し込み

ご注文と代金の支払い方法

下記に記入の上、F A Xにて申し込んでください。メールでのご注文もお受けします。氏名、住所(送り先)、連絡先(電話)をお忘れなくお願いします。

代金は、本と一緒に振込先案内を同封しますので、2週間以内にお支払いください。

『着ること／脱ぐことの記号論』 冊申し込みます。

購入F A X番号 03-3239-2958

E-mail: uozumi@shin-yo-sha.co.jp

担当:魚住(うおずみ)

お名前	フリガナ	電話	
ご住所	〒	FAX	
		E-mail	

計

円

受付日